

不可抗力的恩寵 (創 32:24-28)

イエスを信じる信者は現場で灯台の役割を果たし、死にゆくたましいを生かして、いやし、サミットとして立てる主人公です。信者なら、だれでも十分にこの働きをすることができるのですが、大分部の信者が、現場で自分の弱さや限界を見て、揺れてしまっています。それは、私たちが信じる神様のことをまちがって知っていて、自分の水準で理解して解釈しているからです。聖書で語られている私たちの神様は、どんな方なのかを正しく知りましょう。

アブラハムの家系を通して神様がどんな方なのかを見ましょう。神様はアブラハムを呼ばれ、想像を超える祝福を宣言されました。それは、アブラハムになにか祝福される条件があったからではありません。偶像を作っていた家系で、妻を売るような人でしたが、人がどうだということと、まったく関係なく、無条件に神様は選ばれました。神様の選びと祝福の条件を私たちの水準で誤解しないようにしましょう。イサクは、身代りの雄羊が備えられていましたが、それは、イエスの十字架の犠牲によって祝福されるという神様の方法を現しています。地獄に行くしかなく、本能的に悪魔を好み、悪魔を神だと思って従う人間を呼ばれ、罪のないひとり子イエス・キリストを代わりに十字架につけられた贖いの恵みによって祝福されました。神様の祝福の方法は、イエス・キリストであり、私がどうかということと全く関係ありません。

ヤコブを見るとき、神様はご自分の民を絶対に捨てることなく、あきらめられない方だということが分かります。教会史の中で、人間の目から見ると、絶対に用いられるはずはないと思える人が、神様の時刻表にキリストの前にひざまずくようになり、用いられるようになったことがあります。キム・イクドウ牧師もそうでしたし、聖アウグスティヌスもそうでした。そのように神様がキリストの前にひざまずくようにされた理由は、その人々が神の民だったからです。神様は神の民だという理由ひとつで、絶対にあきらめられることはありません。いまは未信者でも、神の民がいると言われています(使徒18:5-10)。私たちには、だれが神の民かはわかり

ません。ただ、神様は神の民を絶対にあきらめられることはないという契約を握りましょう。神様は絶対に、神様の前にひざまずくようにされます。

神様はどんな方なのかを悟り、すべて新しくはじめましょう。神様はどんなことがあっても、神の民にはキリストを告白するようにさせられます。すでにクリスチャンになっている人は、言うまでもありません。ヤコブがその例です。ヤコブは、欲深く、人間主義を使う人で、逃亡する人生でした。そのような苦難の中で恵みを受け、決断するのですが、すぐに変わり、契約とは関係なく、ひとりの女性のために14年の人生をささげました。肉的な富を得て、子どももたくさん生まれ、願いがかなって成功だと思って、故郷へ向かったのです。しかし、そこで兄エサウが兵隊400人を連れて迎えに出てきていることを聞き、絶対的な危機を迎えます。そこで、成功したと思ったすべてを捨て、家族もすべてひとり残り、祝福してくださいなければ離さないと、ひとり祈ったのです。それは、ただキリストだけになったということです。神様は神の

民には、「ただキリスト」になるようにされます。神様が「ただキリスト」になるようにされる働きは、だれも止めることはできません。それゆえ不可抗力的な恩寵だと言います

祈りの格闘を通して、ヤコブはイスラエルとなりました。名前の意味は、神様がヤコブの前で負けたという意味になります。これは、神様がどういう方なのかをあらわしています。神様は自らの民の前で両手を上げて負けてくださる方です。神様はあきらめずにキリストの前に連れてこられ、そこでただキリストだけだと告白するなら、すべてを無視して、その人を祝福されるのです。倫理、常識、良心などいろいろありますが、どんなことがあっても、神様はただキリストとなるなら、世の基準はなにもご覧にならずに祝福されます。それが、負けてくださるということです。ペテロがキリストを告白したとき、ほかのなにも関係なく「あなたは幸い」だと言われました。

自分自身を見てつまづくことが多いのですが、それは、神様を知らないからです。ただキリストだけだと告白するなら、ほかのすべてはご覧になら

ず、祝福の人物だと見てくださるのです。ペテロが失敗をして3回も否定しましたが、神様は「わたしを愛しますか」と、それでもイエスはキリストと告白するかと問われました。イエスがキリストだと告白するとき、すべての法律は崩れ、「わたしの羊を飼いなさい」と祝福されました。姦淫の女、十字架の横の強盗も、ただイエスを告白したから、祝福されました。それを忘れないようにと、ヤコブの名前をイスラエルとされたのでした。

現場の灯台となれるのは、私たちがいいません。私の水準で神様を判断せず、いつでも、どこでも、無条件にキリストの前に立ち、自分は祝福の者であると確信しましょう。現場で苦しむ人を見るとき、それは、神様がその人のたましいをあきらめられないというサインだと見ましょう。いま現在の状況や姿で判断せず、神様があきらめずに、キリストの前にひざまずかされる過程だと見るようにしま

しょう。神様が神の民をあきらめられないしは、キリストの十字架にあらわれています。私の考えを超えるキリスト見ましょう。あきらめずにキリストの前にひっぱってきて告白させられる神様であると知りましょう。そして、キリストを告白するとき、神様は祝福してくださいさるのです。揺れること、不安はいりません。神様が作業中であり、かならず神様の前に立つ時刻表が来ます。キリストを告白すると神様は「わたしが負けた。あなたにすべての祝福を与えた。永遠のいのちを与え、現場の灯台とした」と言ってくださいます。ほかの人もそのようにされると時刻表を待ち、必ずその時刻表が来るので備えつつ待ちましょう。

(<http://jremnant.com> に音声と動画が出ています)

創世記 32:24-28 不可抗力的恩寵

なるほど/現実を生きる信者が、もし世の因果応報のレベルで神様を誤解すると自分にひっかかって揺れるしかない。しかし、どんな理由があろうと神様はご自分の民を決して捨てたりあきらめることなく、キリストの前にひざまずかせ、そしてご自分の民がキリストを告白するときに両手あげ降伏(負ける)するお方である。ならば/信者なら、いつでも無条件キリストの前に立つ者になろう。そして現場に困難に遭っている人を見るとき、神様がその人を諦めないでいるサインと見て祈ろう。人々を現在の姿で結論付けず、神の時刻表を信じて祈り備えよう。

インマヌエル教会聖日メッセージ祈り文 (2019年2月17日)

1 部礼拝 : 約束されたエリコの陥落 (ヨシ 6:1-7)

福音を逃したイスラエルの民の現住所を見ながら、私の前に置かれたエリコを崩す0.1%信仰の人、契約の人にならせてくださり感謝します。神様がくださった確実な契約を正しく握って、ただ神様のみことばに耳を傾けて、全信徒が力を合わせて、前にあるエリコをすべて崩しますように。確実な契約と宣教の中に私と次世代がいますように。変わらない神様の約束を握って、神様が成される世界福音化に用いられる信仰と契約の人になりますように。イエス・キリストの御名によってお祈りします。アーメン。

2 部礼拝 : 備えられた者、備えられた時刻表、備えられた事件 (ヨシ 6:21-27)

聖書だけが記している絶対に変わらない福音の契約を握って、福音を回復する伝道、宣教の祝福の中にいるようにしてください感謝します。私が行く場所ごとに、神様がラハブのような備えられた弟子をつけますように、まことの福音を握って伝道の中にいますように。福音を握って神様が働かれる時刻表の中で、力を出させて生かす伝道者になりますように。備えられた事件を通して、キリスト、神の国、ただ聖霊を味わいながら、237カ国を生かす伝道者として、祝福の証人として生かすように。イエス・キリストの御名によってお祈りします。アーメン。